かまくらの不思議を歩こう ㊷

森山神社のパワー地図

大貫昭彦

＊古代を綴る一色　葉山のパワースポットめぐり第2回は一色地区です。葉山6カ村（堀内・長柄・一色・上山口・下山口・木古庭）の一つで、ここには、古代に開かれたという社が二つもあります。東大寺の初代の別当良弁僧正が開いたと伝える森山神社と奇稲田姫命を祀る吾妻神社です。今回は森山神社で手一杯なので吾妻神社は次回に回します。

＊自然と文化の町　一色は、西に源頼朝も遊んだ海岸が広がり、北に三ケ岡、東に瀧の台などの丘陵が町を囲んでいます。そうした環境に葉山御用邸、しおさい博物館、県立近代美術館、山口蓬春記念館が点在しています。森山神社は、自然と歴史、新しい文化が調和した町にあります。

＊古代が息づく社　三ケ岡の麓に広がる境内は明るく、古社という重い雰囲気とは異なります。それだけに入口の説明板には驚きます。「…当社は奇稲田姫命を奉斎し、…今から1200余年前、天平勝宝（749～759）の頃、良弁僧正によって勧請された」

＊世計神事　森山神社の二つの行事も驚くべきものです。世計神事は、11月の大祭の折、水と麹を混ぜた『御酒水』を神殿に供え、翌年、水の減り具合を見て、作物の豊凶を占う行事です。結果は神殿の前に書かれています。令和3年の占いは『平年作　世計4合5勺　天候気象の変化に注意』です。

＊行合祭　行合祭は33年に1回、逗子の小坪天王社の神輿が渡御し、森山神社の神輿と出会う祭りです。小坪天王社の祭神は須佐之男命、森山神社は后妃の奇稲田姫命です。境内に階段式桟敷が設けられているのはこの祭りのためです。

桟敷の下にある一色会館は前面の窓を外すと、座敷舞台に早変わりし、鶴岡八幡宮の伶人、巫女の舞が演じられます。夫婦神のめぐり逢いは、前回は1996年(平成8)でした。次回は2028年（令和10）の予定です。

パワー最強の神明神社

森山神社本殿

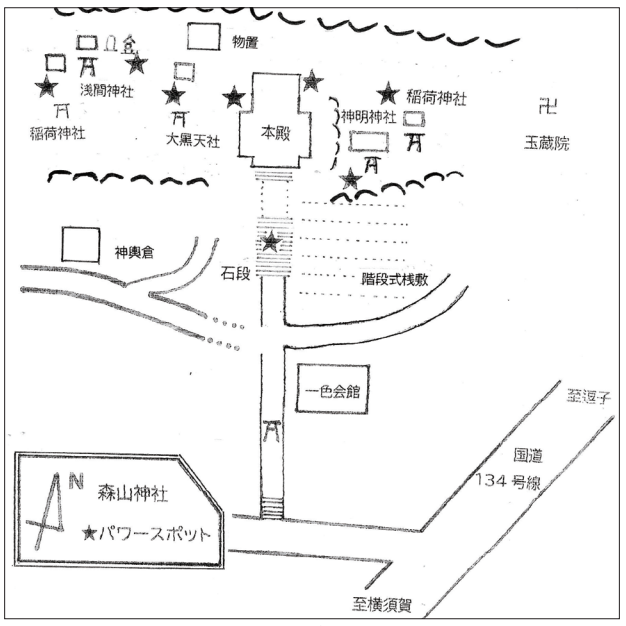
＊御迎えスポット　それにしても境内の開放感は他の社ではあまり経験しないものです。しかし、参道を進むにつれて雰囲気が変わりました。霊感のある人たちが度々足を止めるのです。最初は長い石段の途中でした。「パワーが優しい、やわらかい」などと反応。誰かが、『御迎えスポット』と表現しました。皆さんの話からすると、パワーの優しさは女性の神様に原因があるようです。

＊山から下りた社　パワースポットは次々に見つかりました。社殿後ろの2カ所はいい匂いがするようです。線香の香りという人もいました。

しかし社殿左手のスポットは、マイナスパワーらしく、「頭痛、腰痛、背中が痛い」などの声が聞こえます。大黒天社と浅間神社の間には、壊れた石祠や五輪塔が並んでいます。原因はこれかなと思ったのですが、大根師は「戦場か砦でもあった跡ではないか」と推測されました。確かに境内は小高い台地です。言い伝えによると、社は初め、三ケ岡の山上にあったようです。山から降ろされたのは土地を浄化するためかもしれません。

＊霊感が歴史を解く？　皆さんの祈りが通じたのか、やがてマイナスのパワーは消え、あちこちでプラスのスポットが見つかりました。本殿の右手、神明神社のスポットが最強のようです。

大根師は、「社殿はここに下ろされたのではないか」と言われます。事実なら、霊感が土地の歴史を明かすことになる。面白い話です。



パワースポット地図

子どもたちが家づくりを体験

測量、製図、組み立てまで

古民家や森林を訪れて、実測したり、木の伐採作業を見学したりして、設計図や模型を作り、木材を伐って〝おうち〟を組み立てる、子どもを対象にしたプログラムが5月から開始された。

子どもたちに森の大切さやモノづくりの技を学んでもらおうと、鎌倉みんなのけんちく学校「木和堂」（鈴木直子代表）が12月までの7回シリーズで行う体験学習。自分たちで書いた設計図をもとに実際に木で〝小さなおうち〟を組み立てる。釘を使わない工法なので、何度も再生可能で、次回以降の学習にも活用できるという。10月に丹沢の森林で、伐採作業の見学もある。

今回は、鎌倉市内の小学3年生から高校1年生まで12人が参加。

1回目の5月22日は、北鎌倉にある「宝庵」の茶室を子どもたちが実測し、平面図を書いた＝写真。建築士・日影良孝さんから実測の仕方や注意点の説明を受けると、4グループに分かれて、茶室へ。「こんなところから入るの」と躙り口を初めて体験して驚く子もいた。2㎡四方の茶室の壁を各グループが1面ずつ担当し、巻尺のゼロを持つ人、測る人、図面を書く人の役割分担で窓や柱、躙り口などの寸法をミリ単位で測ると、図面に「2カ所点を打って線でつなぐ」と指導を受け、図面に書き込んだ。

日影さんの丁寧な指導に、「楽しかった」と話す子どもたち。日影さんも「子どもたちの反応がさまざまでやりがいがあった」と話していた。

みんなのけんちく学校の参加者たち＝5月、宝庵で

茶室を実測する子どもたち

鎌倉商議所が市に50万円寄付

エコバッグの販売収益

鎌倉商工会議所（久保田陽彦会頭）が6月7日、鎌倉市にエコバッグの販売収益50万円を寄付した＝写真。

昨年7月からのプラスチック製買い物袋の有料化に伴い、同商議所が買い物客に役立ててもらおうとペットボトルの再生材を使用して作成し、市内で販売している。

久保田会頭は「市のSDGs活動に役立ててほしい」と松尾崇鎌倉市長に寄付金を贈呈した。松尾市長は「子どもたちのSDGsの教育に活用したい」と礼を述べた。

今後もバッグの販売は継続する。1個770円（税込）。同商議所、市観光協会、同商議所会員店などで販売。問い合わせ鎌倉商工会議所☎0467・23・2361

神奈川県推進SDGsパートナー

鎌倉青果が登録

企業等におけるSDGs推進の裾野を広げることを目的に、神奈川県が2019年度から行っている「かながわSDGsパートナー」（第5期）に5月に鎌倉青果が登録された＝写真。登録者数は172で、第1期～第4期と合わせて504件。

登録されると、県の中小企業制度融資による支援を受けられ、その取り組み事例を県から発信、パートナー間のマッチング支援や中小企業者のSDGs経営に向けた取組支援、「かながわSDGsアクションファンド」を通じた資金調達及びSDGsインパクトの「見える化」が受けられる。

鎌倉青果は1981年（昭和56年）設立。地域生産者の活性化と安心安全な野菜を販売するために「鎌倉いちばブランド」を立ち上げ、農林水産省主催の「フード・アクション・ニッポンアワード」で受賞した。

持続可能な農業を目指し、市場では、流通販路を拡大し、輸送で発生するCO2の発生を極力抑えるよう他県や海外農産物の販売量を減らして、近隣生産者からの出荷を主に扱う。また、農産物は天候に左右されるため、販売できない野菜が出た場合、廃棄処分にせずに地域の子ども食堂などに無償で提供している。

高橋伸行代表は、「青果を通じて社会奉仕をしながら、SDGsのゴールを目指していきたい」と話している。

鎌倉といえば・・・
鳩サブレー
豊島屋
http://www.hato.co.jp

八幡宮前・蒲焼専門店
うなぎ 茅木家
☎（22）1460

お香 香炉 香道具 匂い袋 高級線香 念珠 他
鎌倉に蘇える伝統の香り
香司 鬼頭天薫堂 鎌倉
鎌倉市雪の下1-7-5 小町通り八幡宮寄り
TEL. 0467-22-1081（代）
http://www.tenkundo.co.jp/

GALLERY 一翠堂
貸ギャラリー　鎌倉市小町2-8-35
http://issuido.jp/gallery.html